

故郷への送金

●故郷への送金(表1参照)

和歌山移民は、移住先で稼いだお金の多くを故郷に送金していました。故郷で待つ家族や親せきへはもちろん、出身村の学校や寺、神社などへも多くのお金が送られており、村の暮らし全体を支えていました。

和歌山移民からの送金額は、大正末期まで、全国第一位を占めていたと言われていました。

●今も残る移民の想い

美浜町からカナダに渡った工野儀兵衛く の ぎ へ い。日清戦争の軍資献金ぐんしけんきんをバンクーバー日本領事館を通じて贈ったり、小学校の建築費を故郷の三尾村へ送金したりしていました。儀兵衛と同郷の移民たちにより組織された加奈陀三尾村人会もまた、故郷へ多くの送金を行っており、村の小学校や寺、神社の改築費などの多くは、故郷を想う移民からの寄付により賄われていました。



龍王神社に残る海外からの寄進者の名前(撮影:中澤純一)

●地域に見る和歌山移民の特色(図1参照)

変化に富んだ地形と地域による文化の違いを持つ和歌山県。そこから海外へ出た移民もそれぞれ地域による特色があります。

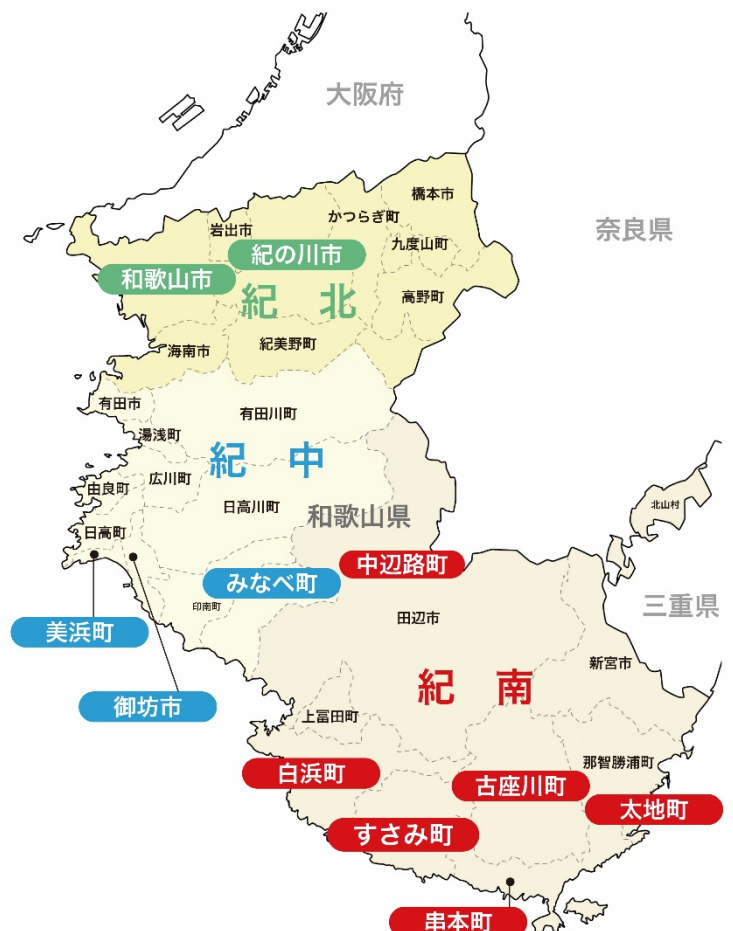
表1

海外在留和歌山県人の和歌山への送金額
1928年(昭和3)年 和歌山統計表

国・地域	送金者数	送金額
アメリカ合衆国	2,738人	4,570,146円
カナダ	559人	499,810円
メキシコ	46人	18,601円
ペルー	27人	7,626円
ブラジル	116人	29,005円
ハワイ	198人	94,230円
オーストラリア	1,059人	515,196円
フィリピン	109人	58,361円
インド	48人	32,519円
シンガポール	45人	57,822円
チリ	2人	380円
東インド	10人	8,980円
キューバ	15人	3,780円
中国	75人	9,083円
ジャワ(インドネシア)	16人	6,948円
フィジー	11人	8,870円
樺太	8人	3,116円
ポルネオ	2人	820円
合計	5,084人	5,925,293円

出典:「和歌山県移民史」(和歌山県、1957年発行)

図1



●紀中

県の西側に位置する日高郡美浜町の小さな漁村三尾村からは、多くの人々がカナダへ移住しました。険しい山々が海に迫り、岩石海岸を形成する地形は、漁業基地として決して恵まれていたわけではありません。また、外海に面した立地は、自然災害の影響を受けやすく、台風の被害にも頻繁にあっていました。それでも漁業は盛んに行われていましたが、江戸末期から明治にかけての周辺地域との漁場争いにより、三尾村の漁業は衰退していきました。

このような村に転機をもたらした人物が、三尾村出身の工野儀兵衛でした。1888(明治 21)年、工野はカナダへ単身渡航し、バンクーバーの南方にあるフレーザー河にひしめくサケの大群をみて驚き、「フレーザー河にサケが湧く」と故郷に手紙を書き、親せきや友人を呼び寄せました。そして、毎年十数人以上がカナダへ渡り、1940年頃には三尾村からカナダへの移民は2,000人を超えていました。

美浜町 工野儀兵衛(カナダ)旧日高郡美浜町三尾村出身 1854—1917

1888(明治 21)年、横浜を出航しバンクーバーに到着。儀兵衛の呼び寄せに始まる三尾村のカナダ移民は、「加奈陀三尾村人会」を作りました。お金を稼いで帰国した人々は故郷に洋館を建て、西洋の生活様式を持ち帰ったので、三尾村は「アメリカ村」と呼ばれるようになり、村の経済や文化に大きな影響を与え、周辺町村や他府県でのカナダ移民の呼び水となりました。カナダ太平洋岸のサケ漁業の発展への貢献から、1931(昭和6)年には郷里に顕彰碑が建立されています。また1989(平成元)年にはカナダ和歌山県人会によりスティーブストンのフレーザ河畔に「工野庭園」が造られ、リッチモンド市に寄贈されています。



工野儀兵衛
美浜町教育委員会「美浜町史」より転載

御坊市 花月栄吉(カナダ)旧日高郡湯川村出身 1883-1967

1906(明治 39)年、林業を志しバンクーバーに渡り、1923(大正 12)年、バンクーバー島のファニー・ベイに山林を購入。ファニー・ベイ木材会社を設立し、山林から海岸へと木材を搬出するための鉄道を敷設しました。業界初と言われる鉄道による搬出と日本への材木輸出により、カナダ林業界の先駆者と称えられ、カナダ政府からも絶大な信頼を得ました。日本人会会長、商工会議所会頭、仏教会長などを歴任し、カナダの日系社会にも大きな貢献を果たしました。

みなべ町 松原安太郎(ブラジル)旧日高郡岩代村出身 1892-1961

1918(大正7)年、ブラジルへ渡り、コーヒー栽培と牧畜に従事。その後、サンパウロ州マリリアで3,200ヘクタール(東京ディズニーランドの約63倍)の大農場主となります。

松原は選挙資金の協力などで親交のあった当時の大統領ジェツリオ・ヴァルガスの協力により、1952(昭和 27)年、中部ブラジル4か所(マツト・グロッソ州、ミナス・ジェライス州、バイーア州、マラニョン州)に8年計画で4,000戸、2万人の日本人移民入植計画(いわゆる「松原計画」)の承認を得ました。

和歌山県では、これに呼応し1953(昭和 28)年3月に全国で初となる移民課を設置します。同年7月には県内で大規模な水害が発生し、県民の生活に大打撃を与えたことから、海外移住をさらに推進していきました。



左から松原安太郎とヴァルガス大統領
国立国会図書館デジタルコレクション(電子展示会「ブラジル移民の100年」)より転載

出典: JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示(2015)「連れもて行こら紀州から！—世界にひろがる和歌山移民—」